

見守りロボット Omni Watch Care のご紹介

— 現場の「目」と「記録」をAIがサポート —



株式会社サリー・プロジェクト
2026/1/3

介護現場の課題

人手不足が深刻化する中、
介護現場では次のような課題が生じています。

1. 見守りが必要な利用者が増加
2. 職員一人の負担が大きい
3. 記録作業に多くの時間がかかる
4. 「何か起きてから気づく」不安、リスクマネジメント
5. ヒヤリハット事案や実際の事故が発生してからの対応



既存の見守りの限界

職員による見守り



夜勤は特に1人で何人も見ないといけなから不安
書類作成もあるし、食事介助もある。ずっと見て
るのは難しい

録画はしているけど、何かあったときにしか見返
さない
異常アラートは出るけど、何が起きたかは説明し
てくれない

職員が常に見守ることは
不可能

カメラによる見守り



カメラを設置しても
活用できていない

我々の提案

AIが見守りの目と記録をサポート

- 映像記録

利用者の状況を継続的に録画し、必要な時に確認可能

- 転倒/離床検知

AIが動きを解析し、危険行動を自動で検知

- AI見守り機能（リアルタイム居室内分析）

ボタンを押すと、
居室映像の代わりに生成AIが状況をテキストで説明
（例：「テレビを見ています」「ベッドで休んでいます」）

- 映像分析によるレポートを出力

映像データをAIが解析し、日常の行動をレポート化



導入すると変わること

Before

- 見守りに常に緊張
- 記録は後回し
- カメラ映像は使われず破棄



After

- AIが常時見守り
- 記録は自動で完成
- 情報共有が簡単



Omni Watch Care で「安心」と「時間」が生まれる

導入シーンの例

夜間の見守り

少ない人数で複数人の見守りは大変…



AI分析ですべての居室状況を一括把握

ケアプランの作成

入居者に最適なケアを見極める

AIによる週次報告機能で入居者のプライバシーを確保しつつ分析

例) 毎日7時15分頃に起床されていて、水曜の19時頃はテレビ鑑賞をされています

異常対応

ケアや書類作成・情報共有で業務が煩雑に

異常発生直後

AIが異常姿勢を確認し、端末に通知



初期対応完了後～報告書作成

事故動画の分析機能で事故報告書を即時作成



- 1 概要
入居者が居室のベッドに腰掛けた状態から、床に落ちたリモコンを拾おうと前かがみになった際にバランスを崩し、床に転倒した事例。
- 2 推測される発生原因
・身体的要因：ベッドに腰掛けた不安定な姿勢から、立ち上がらずに無理に床の物を取ろうとしたため、重心が大きく前に移動しバランスを崩した。加齢による体幹筋力や平衡感覚の低下も一因と考えられる。
・環境的要因：近くに支えとなるものがなく、そばにあった歩行器も利用しなかった。ベッドサイドに物を置くスペースが不足しており、リモコンなどを床に落としやすい状況であった可能性も考えられる。
- 3 対策方法
・環境整備：ベッドサイドテーブルを設置し、リモコンや身の回りの品を手が届く範囲に置くように環境を整える。床に物を落とすとしても無理に拾おうとせず、ナースコールで職員を呼ぶよう改めて本人に説明し、協力を求める。
・福祉用具の活用：座ったままでも物を拾える「マジックハンド」のような自動具の導入を検討し、使用方法を指導する。
・見守り強化：転倒リスクが高い入居者として再評価し、訪室頻度の見直しや、ベッドからの離床を検知するセンサーマットの設置を検討する。

開発者のコメント

見守りカメラが導入されていても、その多くは転倒時の通知や事故後の検証など、有事の際にしか活用されていません。異常が発生しない日常の記録映像は、活用されることなく消去されているのが現状です。

私たちは、この**捨てられてしまう映像**に着目しました。プライバシーを厳守した上で、日々の様子を**介護業務に活かせるレポート**として可視化します。

現場の声に耳を傾け改良を重ねることで、入居者様の**安心**を支え、職員様の**業務を力強くサポートするシステム**へと進化させてまいります。

Q&A

Q1. カメラでずっと撮影されるのはプライバシーが心配です

A. 本製品は「見守り」が目的で、「監視」ではありません。AIが必要な情報だけを通知・記録します。また、映像ではなく「文字」で情報を通知しますので、可能な限りプライバシーをお守りできます。ただし、事故が起こった場合や施設のご要望があれば映像を表示することも可能です。ご家族への説明資料など、施設方針に合わせた運用設計が可能です。

Q2. 機械が苦手な職員でも使えますか？

A. はい、現場で使いやすさを優先しています。操作はシンプルで「見る・確認」が中心。新しい入力作業はありません。実際に画面を見てもらうと「これならできそう」とよく言われます。

Q3. 誤検知や見落としはないですか？

A. 完璧とは言えません。そのため最終的な判断は人が行います。AIは気づきを補助し、現場の声で精度調整も可能です。また、今回はデモ機ですので、現場での精度を確かめるためのものです。

Q4. 導入に大きな工事は必要ですか？

A. 基本的に不要です。今ある環境で設置できて、小規模導入も可能。まずは1部屋からでも始められます。施設の状況に合わせて提案します。

Q&A

Q5. 費用はどれくらいかかりますか？

A. 本体価格29万8000円、月額3000円になります（1台当たり）。

Q6. 補助金や助成金は使えますか？

A. 時期や制度によって異なりますが、介護やDX、見守り関連の補助制度が使える場合があります。導入ご検討時には利用できる制度もご案内します。